

コミュニティ だより

徳島市コミュニティ協議会
徳島市幸町2丁目5番地
〒770-8571
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511



徳島市長 遠藤 彰良



明けましておめでとうございます。
新しい年を穏やかに迎える
のことに謹んでお慶び申しあ
げます。

皆さま方には、日頃よりコ
ミュニティ活動に深い御理解
と多大なる御尽力をいただき
「コミュニティだより」をお借
りし、心よりお礼を申しあげ
ます。

さて、昨年を振り返ります
と、地方自治法施行七十周年
の節目を迎えた極めて意義深
い年であり、住民自治の大切
さを改めて肝に銘じる一年で

ありました。

その記念行事において、徳
島市コミュニティ連絡協議会
の島田会長が地方自治功労者
として、総務大臣表彰を受賞
されました。

長年にわたり本市のコミュ
ニティの振興に大きく貢献し
てこられました島田会長の受
賞は、誠に喜ばしいことであ
り、私たちにとって大きな誇
りであります。

また、市政においては、今
後十年間のまちづくりの指針
となる「徳島市まちづくり総
合ビジョン」をスタートさせ、
「笑顔みちる水都・とくしま」
を将来像に、誰もが笑顔で暮
らせる、市民満足度の高いま
ちづくりに向けた第一歩を踏
み出しました。

主な取組みとして、将来を
担う子どもたちの育成や、災

害から市民の命を守るため、
防災対策の強化に力を注ぐな
ど、皆さまとともに多くの人
にそこに住みたい、住み続け
たいと思っていただけるまち
づくりを進めてまいります。
しかし、その実現のために
は、地域コミュニティと行政
が、まちづくりのパートナー
として、より一層、協力関係
を深めながら地域特性に応じ
たきめ細やかな地域づくりを

進めることが必要不可欠であ
ります。
どうか皆さま方のなご一層
のご支援とご協力を賜ります
ようお願い申し上げます。
結びに、この一年が皆さま
方にとりまして、実り多い、
「笑顔みちる」年となります
よう心からお祈り申しあげま
して、新年のご挨拶とさせて
いただきます。

新年の挨拶

徳島市コミュニティ連絡協議会

会長 島田 和男



新年あけましておめでとう
ございます。会員の皆さまま
には輝かしい新年をお迎える
こととご推察を申し上げます。
昨年を振り返ってみますと、
年間を通して北朝鮮問題では
なかつたでしょうか？

九月末時点において、日本
海、太平洋に向けてミサイル
実験を繰り返し、八月末日に

は太平洋に着弾したこと
でしょう。すなわち日本は北朝
鮮の攻撃範囲に入り、常時危
険な状況におかれたことにな
ります。たとえ水爆や核攻撃
を受けなくとも、日本には何
十基もの原子力発電所があり、
万が一ミサイル攻撃を受けた
ら発電所が破壊され、放射能
漏れが発生し、人が住めなく
なる恐れが十分にあります。
そうならないよう政治家の皆
さまが、知恵を出し合い解決
方法を見いだしてもらいたい
ものです。

また地球環境は急速に悪化
をたどっていると感じられる

今日この頃です。世界中の至
る所で大雨や大地震が多発し
ていますし、日本においても
北九州豪雨など短時間雨量が
劇的に増加し、各地区で大雨
情報や竜巻情報が出るよう
になりました。私たちが若いこ
ろには一時間当たり百ミリを
越すような大雨や、竜巻情報
など聞いたことがありません
でした。実際に排水溝などは
時間雨量三十ミリで計算され
ていました。

昨年、徳島市においても台
風十八号が本県を横断し、私
たちの管理している各コミュ
ニティセンターが避難所とな
りました。幸い大きな混乱や
被害もありませんでした。地
域の避難所として、また、町
づくりの中心施設としてより
良く運営していくためには、
各コミュニティ協議会がお互
いに切磋琢磨し、町を活性化
する必要があります。そのこ
とが市全体を良くしていくも
のと思えます。

最後になりましたが会員の
皆さまにとり、より良い年と
なりますよう心より祈念を申
しあげ、新年の挨拶といたし
ます。





県庁での伝達式の様子(右が島田和男会長)

平成二十九年十一月二十日に東京国際フォーラムで開催された地方自治法施行七十周年記念式典において、地方自治の伸展及び住民の福祉の増進に努めたとして、徳島市コミュニティ連絡協議会会長・津田コミュニティ協議会会長・島田和男氏が地方自治法施行七十周年記念総務大臣表彰を受賞されました。

地方自治法 施行七十周年記念 総務大臣表彰



東富田コミュニティ協議会 松ノ内清会長

平成二十九年十月一日に開催された置市記念式典において、多年にわたり市政や市の発展に寄与されたとして東富田コミュニティ協議会会長松ノ内清氏が市政功労者として表彰されました。
また、同式典において、徳島市地域貢献高齢者顕彰制度

市政功労者表彰 及び 地域貢献高齢者顕彰

に基づき、日頃から地域のコミュニティ活動に貢献されている方々に対し、遠藤彰良市長から感謝状の贈呈が行われました。
市長からの祝辞の後、受賞者を代表して加茂コミュニティ協議会の能田勤氏より謝辞が述べられました。
顕彰されたのは次の方々です。



- 内町まちづくり協議会 富永 幹夫
- 新町コミュニティ協議会 宮田 節子
- 西富田コミュニティ協議会 荒瀬 俊之
- 東富田コミュニティ協議会 福田 博
- 昭和コミュニティ協議会 松本 正文
- 住吉・城東地区町づくり協議会 朝田 元子
- 渭北街づくり協議会 花菱 和良
- 佐古コミュニティ協議会 玉井 茂
- 沖洲コミュニティ協議会 松下 徹
- 津田コミュニティ協議会 中島 孝治

- 加茂名まちづくり協議会 横関 義美
- 加茂コミュニティ協議会 能田 勤
- 八万町各種団体連絡協議会 松尾 孜
- 八万中央コミュニティ推進協議会 喜多 延行
- 八万コミュニティ推進協議会 野村 臣
- 勝占東部コミュニティ協議会 岡久 純三
- 多家良地区連合協議会 美馬 正一
- 丈六コミュニティ協議会 石川 隆義
- 不動コミュニティ協議会 井原 隆子
- 入田町まちづくり協議会 西田 藤義
- 上八万まちづくり協議会 山中 啓巧
- 一宮下町づくり推進協議会 佐々木喜和子
- 川内まちづくり協議会 吉田 眞造
- 川内南コミュニティ協議会 坂東 公雄
- 南井上コミュニティ協議会 榎本 光孝

(以上行政区順)



地域貢献高齢者顕彰記念 平成 29年 10月 1日

代表者謝辞

加茂コミュニティ協議会

能田 勤

ただいまご紹介をいただきました。加茂地区の能田でございます。

本日、受賞の皆さまを代表して、一言お礼のご挨拶を申し上げます。

顕彰された皆さまは、各地域のコミュニティ活動を通



加茂コミュニティ協議会 能田勤様

して、地域のため社会貢献をされてきたことと存じます。私も五十代前半から八十過ぎまでの三十二年間、町内会町を長年務め、地域活動に参加させていただきました。最近、地震・洪水など自然災害に悩まされる現状があり、地域の中でのつながりが大切に思われます。今回、こうした活動を評価していただきましたことは、この上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。

終わりにになりましたが、徳島市および各地域のますますのご発展を心からご祈念申しあげ、粗辞ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

シリーズ
名所・旧跡

阿波の偉人 関寛斎



内町まちづくり協議会
宮澤 武志

徳島に住んで長い間になりますが、関寛斎について知っているかと思われると返事に窮します。関寛斎というだけで歴史を語る方はすごいなと思います。私も明治時代からの歴史に興味を持っていますが、残念ながらよく知りません。内町小学校のひょうたん島オリエンテーリングの児童に対する説明文を作成中、我が郷土にこのような凄い偉人がいたことを知り、深い感動と感銘を受けました。

残念ながら関寛斎は徳島出身ではありません。文政十三(二八三〇)年、現在の千葉県東金町の農家の子として生まれました。四歳で母に死別し、儒学者である養父に預けられました。塾での学習では早くもその才能を認められたといえます。そして苦しい生活の中、十九歳で佐倉順天堂に入

門して師匠佐倉泰然に認められ、当時最新の西洋医学であつたオランダ医学(蘭学)を修得しました。当時の医学は東洋医学が一般的で、鍼や灸、漢方が一般的でした。二十七歳で佐倉順天堂に通いながら結婚して銚子にて医院を開業します。その後、新しい学問を取り入れられ日本で一番進んでいた長崎に留学し、オランダ商館の医学のポンベ先生に西洋の医学を学びます。銚子に帰ることなく、三十四歳で阿波藩十三代藩主蜂須賀斉裕の侍医として徳島に來ました。薩摩藩、長州藩などが江戸の幕府を倒すための戊辰戦争では戦場に設けられた病院に軍医として従軍します。奥州出張野戦病院の外科医として、負傷兵の手当てに従事します。その実績から病院長まで昇進しました。戊辰戦争

後、明治政府の軍医男爵の位を断り、明治六年、徳島に帰って町医として生計を立てます。四十五歳のときでした。今の徳島大学医学部の元になる徳島藩立医学学校も開校されました。開業した場所は現在の城東高校校地でした。貧しくてお金のない人たちには無料で治療にあたり、裕福な人たちからは高い治療費を取ったそうです。「医者は貧しい人、お金のいる人、ない人を差別してはいけない、同じように病人として手当をしなくてはいけない」という考え方で平等な医療を施したそうです。人々は彼を「関大明神」と呼び、後ろ姿に手を合わせたといいます。その期間は三十年にわたり、徳島の庶民の医療と社会奉仕に力を尽くしました。明治時代に最先端の医学治療と人は全て平等という今でも十分に通用する理念に驚愕します。本当にこんな凄い人



中徳島河畔緑地にある関寛斎の石碑

が徳島にいたということ自体が誇りに思えます。それからまだ開拓されていなかった北海道陸別町に七十二歳に行きます。大正元(一九一二年)に亡くなりました。その功績をたたえ、陸別町には関寛斎資料館があります。徳島には開業した近くの中徳島河畔緑地に立派な石碑があります。近くまで行かれたらぜひ石碑を見て、その功績と思想を知ってください。

長寿を祝う

南井上地区敬老会



祝い状の贈呈

平成二十九年九月十日、南井上コミュニティセンターにおいて、南井上地区敬老会が開催されました。

南井上では、七十五歳以上の八百八十一名の方に、各町内会長のご協力を得て、招待状と記念品を届け出席のご案内をいたしました。

当日は、残暑厳しい中ではありましたが、大勢の方が出席されました。

式典の中で、今年も長寿の祝いが行われ、百十三歳（県内第二位）の「最長寿」、百歳以上の「長寿」二名、「米寿」三十二名、「喜寿」六十四名、実婚七十年以上の「ダイヤモンド婚」一組、実婚五十年以上の「金婚」十二組の方々が披露され、ご出席の方にお祝い状と記念品が贈呈されました。また今回も「IZMプロフォトスタジオ」のご厚意により、式典の後、受賞者で希望する方々の記念写真の撮影が行われました。

来賓の方々からは、心温まるお祝いの言葉や健康長寿に向けての「心がけ」などのご教示をいただきました。

そして、南井上小学校児童三名からの「敬老のことは」では、家族内、地域内でのおじいちゃん、おばあちゃんとの日常生活のさまざまな場面で感じた「敬愛の念や感謝の気持ち」が、発表されました。

式典の後の「お楽しみ演芸会」では、最初に南井上幼稚園児二十二人による歌と踊り、小学校三年生六十七名によるリコーダー演奏と斉唱、小学校金管バンド部による金管アンサンブルが奏でら



小学校3年生によるリコーダー演奏

れ、出席者の皆さまは、目を細めて地域の孫さんたちの演奏などを楽しみました。

そして、昼食を取りながら、日本舞踊の数々、フラダンス、女性会、福寿クラブ二十五名による「袋井音頭」の集団民舞と多種多様な演目を楽しんでいただきました。

楽しく和やかな敬老会の一日でしたが、後援いただいたコミュニティ協議会、町内会連合会、公民館運営委員会、民生児童委員協議会、女性会、ボランティアA i、母子寡婦福祉会をはじめとした関係者の皆さまのご協力により、盛会裏に開催できたと感謝しています。

（南井上地区社会福祉協議会）

本年もよろしく
お願いいたします

- 沖洲コミュニティ協議会 会長 三栖谷高照
- 津田コミュニティ協議会 会長 島田 和男
- 加茂名まちづくり協議会 会長 原田 治郎
- 加茂コミュニティ協議会 会長 高島 稔之
- 八万町各種団体連絡協議会 会長 矢田 嘉昭
- 八万中央コミュニティ推進協議会 会長 露口 玲子
- 八万コミュニティ推進協議会 会長 岩田 唯夫
- 勝占地区コミュニティ連合会 会長 山口 敏
- 勝占中部コミュニティ協議会 会長 竹内 鋭治
- 勝占東部コミュニティ協議会 会長 高島 伸一
- 多家良地区連合協議会 会長 福村 和則
- 多家良中央コミュニティ協議会 会長 開 寛
- 丈六コミュニティ協議会 会長 梅本 辰雄
- 不動コミュニティ協議会 会長 大川 良文
- 入田町まちづくり協議会 会長 森 政雄
- 上八万コミュニティ連合協議会 会長 福井 利興

- 上八万まちづくり協議会 会長 阿部 増江
 - 一宮下町まちづくり推進協議会 会長 祖川 信明
 - 川内まちづくり協議会 会長 増金 賢治
 - 川内南コミュニティ協議会 会長 河井 宏紀
 - 応神町コミュニティ協議会 会長 玉置 勇次
 - 国府コミュニティ協議会 会長 藤村 俊治
 - 新町コミュニティ協議会 会長 沖野 高穂
 - 西富田コミュニティ協議会 会長 小出 雅彦
 - 東富田コミュニティ協議会 会長 松ノ内 清
 - 昭和コミュニティ協議会 会長 松岡 勤
 - 渭東コミュニティ協議会 会長 中嶋 修三
 - 住吉・城東地区町づくり協議会 会長 浜田 耕市
 - 渭北街づくり協議会 会長 竹田 昌弘
 - 佐古コミュニティ協議会 会長 三木 隆清
 - 南井上コミュニティ協議会 会長 松島 孝昌
 - 北井上地区コミュニティ協議会 会長 前川 俊治
 - 内町まちづくり協議会 会長 豊田 雅信
- (順不同)

一宮・下町地区自主防災会連合会の活動について

一宮・下町地区自主防災会連合会

会長 竹田 廣行

本会は、一宮・下町地区に自主的な防災活動を行う目的で、十三組織六百二十五世帯で結成されました。各自主防災組織に対し、相互の連絡調整、育成指導及び支援活動を行うことにより、地震、風水害、火災等の災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的としております。

昨年、日本各地で地震や台風により大雨、土砂流、河

川の氾濫による、自然災害が多発しました。

一宮・下町地区においても、東南海・南海地震等に備えて、避難訓練及び炊き出し訓練等を実施し、住民の方々の防災意識の向上及び地域の連帯強化を図ることを目的に、防災訓練を実施しております。

本年度も七月一日に鮎喰川河川敷での放水訓練、可搬ポンプ操作、炊き出しの配付、



ポンプ操作訓練



炊き出し訓練

救急法（応急手当て等）訓練を、また、一月二十一日は小学生・中学生・地域住民の方々が参加して、救命講習（三角巾などを用いた応急手当て、応急担架作製）、地震体験、消火器、煙体験を二百五十名余りで行いました。毎年訓練内容を変えております。



応急手当て・応急担架作製訓練

日頃から、災害の発生時ににおける危険を認識していただき、日常的な備えを行い、自然災害等の危険に際して、自分の命は自分で守り抜くため主体的に行動ができるようにと思いい訓練を行ってまいります。訓練以外にも清掃活動、県外

研修なども行っております。一宮小学校南側に船戸川があります。川下の地形が変形しているため、船戸川両岸では台風時等で、床上床下浸水また、田んぼでは、収穫前の稲が被害に合うなど住民は長年苦しんでいます。平成二十

七・二十八年に県河川課による船戸川川底砂利撤去工事後は、それまでは水が引くのに三日かかっていたのが、一日で水が引くようになりました。また、一宮町西北には紅葉山があり、土石流危険指定地区になっております。そのため、自主防災会連合会では、



自主防災会連合会会員による船戸川清掃

のり面等の異常がないか見回りもしております。これからも住民の皆さまが、安全・安心に暮らせていただけるように自主防災会連合会活動を継続していかねばならないと思っております。

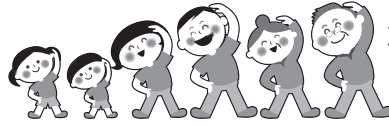
(一宮下町づくり推進協議会)





初日の注意

ラジオ体操の意義について



沖洲地区ラジオ体操実行委員会
岩佐 徳雄



ラジオ体操初日

本年度、健康増進、地域の交流の場として、夏休み期間中の早朝、沖洲小学校のグラウンドでラジオ体操を実施したところ、一日平均百名ほどの子どもたちや、住民の皆さまに参加していただきましたが、事故もなく無事に終えることができました。

この行事は、民生児童委員の中から声上がり、民生委員、沖洲体育協会、沖洲小学校PTA役員、コミュニティ協議会員のご支援、ご協力をいただき、徳島市の「新たな地域自治協働システム構築に向けたモデル事業」の一環として、徳島大学の矢部先生にアドバイスをいただきながら事業を行いました。さて、現在は、経済的な豊



ご褒美のくじ引き

かさや技術の進歩が生活を便利にして快適なものに変えてきました。特に最近では情報通信機器の急速な進歩と普及が、人々の生活様式だけではなく、人と人との関わり方も著しく変化させています。社会として非行防止、健全育成、被害防止の観点から積極的に対応していかなければと思われま

す。このため、コミュニケーション能力や規範意識を培ってきた地域社会が果たしてきた役割についても一度考え、社会環境の浄化に努めて、非行を生まず、犯罪の被害にも遭わない社会づくりを推進することが求められていると思います。

「今まで道で会うだけだった人とも話しができて楽しい夏休みでした。」「孫ふたりと参加しました。来年もやりたいと言っています。」「ラジオ体操という小さな催しだが、地域のひとつのつながりを大きくする可能性を秘めている。」

わたが佐古地域では『文化』による住民の繋がりが、いま濃密になっています。これは平成二十六年度に認定された徳島市の「地域の絆づくり支援事業」が、終了後も住民主体により自立継続しているもので、支援事業の成果の一つと私たち住民は考えています。

商業の街から住宅街へ、また住民の高齢化など地域の特性が様変わりした佐古地区で、少しずつ希薄になろうとしていた住民の絆を、『文化』をツールとして以前のように回復させようとしたのが、佐古の絆づくり事業だったのです。徳島市の支援が終わったあとも、コミセンは「俳句」「絵

絆づくり事業その後

佐古コミュニティ協議会

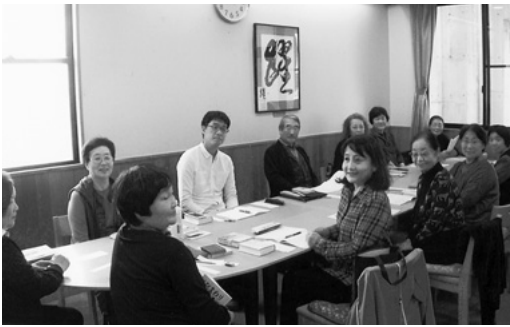
蔵本 芙美子

などのご意見をいただきました。ラジオ体操が人と人の繋がりに役立てばと願って、来年度からも継続して行う事業にしていきたいと思っております。

(沖洲コミュニティ協議会)

手紙」「水墨画」「写真」「万年山ガイドボランティア」などの講座に参加する人々で賑わっています。

ある日の「俳句」の教室(俳句では句会といいますが)の様子を少し。毎月一回の開催で、約十五人が出席です。俳句は座の文芸と言われているので、句会では投句、選句鑑賞など、俳句をつくるだけでなく他の人の俳句について鑑賞批評しあったりして座の仲間と意見交換をします。もちろん終了後のティータイムもお楽しみの一つで、俳句という共通話題やたわいなおしゃべりに、友人の絆がどんどん深まっていきます。



俳句教室の様子

絵手紙は月一回、水墨画は月二回の開催、そのほかも随時行っていて、地域住民の集いの要である佐古コミセンの利用状況も全体的に活発になりつつあるようです。ちなみに、これまでコミセンに入入りしたことのなかった人もいて、講座に来ることがきっかけでコミセンの敷居が感じられなくなったとか。

また、これをきっかけにさらなる絆を深めようと、佐古にはこれまでになかった「佐古絆文化協会」も誕生、佐古で活動している文化関係の団体が集まって定期的な情報交換や、三月の「作品展」に向けて準備をしているところだ。

—地域とともに— 実りある一年を目指して

渭東コミュニティ協議会

渭東地区では、昨年より「地域防災力の向上」と「子育て支援」に重点を置いた事業に取り組んでいます。

まず、防災力向上活動の一つとして、徳島市危機管理課と地区自主防災連合会、町内連合会の協力のもと、「津波避難計画」の策定を進めています。

これは、南海トラフ地震による最大クラスの津波被害を想定して、避難困難地区である渭東の住民が、迅速かつ適

切な避難行動を図り、津波の被害を軽減するための避難計画です。昨年は、数回の会議とワークショップを行い、地域の危険箇所や避難経路、避難場所の再確認を、また、避難行動要支援者の対応等を検討しました。

今年も、実際に地域内を歩く避難シミュレーションを実施し、より良い避難計画ができるよう取り組んでいます。

次に「子育て支援」として、こちらは一昨年からNPO法人フェローシップ77と共催して、「福島小学校校区通学路スタ

ンプラリー」を行っています。児童と地域の人が通学路マップを片手に、「登下校時に危ない場所はないか」、「狭いのに交通量が多い所はどこか」などを確認しながら一緒に歩きます。そして、危険を感じたときに駆け込む「こども一〇番の家」を訪ね、マップにスタンプを押してもらいます。地域の人と子どもたちが顔見知りとなることで、あいさつを交わすようになり、地域のコミュニケーションの活性化と安全にもつながります。

昨年、小学校区内に大型ショッピングセンターがオープンし、交通量が格段に増えました。登下校時だけでなく放課後や休日の対応も今後の課題と考えています。

この他にも、年間を通じてさまざまな防災事業や子ども支援活動を地域団体と協力して実施しています。

今年も、地域のために実りある一年を目指します。



「津波避難計画」の策定のためのワークショップ



福島小学校校区通学路スタンプラリー

「勝占東部地区津波避難計画」に基づく避難訓練の実施

勝占東部コミュニティ協議会

会長 高島 伸一



避難場所へ到着

「徳島市勝占東部地区津波避難計画」が平成二十八年二月に完成しました。この計画に基づき、シミュレーション結果図により色分けされた「各戸別避難場所」まで避難する訓練を実施しました。以下その概要を報告します。以下各戸別に避難場所を示した「結果図」については勝占東

部全戸に、新聞折り込みおよびポストイングにより、配布しました。さて、「結果図」の配布までは予定どおり、あとは訓練を実施するのみです。「何とかなるわ、やるしかない」ということで、計画をしました。まず実施日ですが、平成二十九年三月十一日が土曜日であつたので即断しました。

そして、具体的な訓練内容を決めていく中で、「いかに多くの住民に参加してもらうか」ということで、徳島市消防局予防課に指導を仰ぎました。「できるだけ多くの人に参加してほしいのですが何か良い方法は？」「ほら物あげることじゃ」即答していただきました。あとで結果をみると大正

平成29年3月11日 津波避難訓練参加人数

避難場所	世帯数	人数
警察学校	15	38
磯永氏山林	9	12
小浜氏山林	25	32
あさがお	13	16
論田小学校	123	216
大原集会所	24	32
N T T 跡地	24	32
安東氏山林	15	42
米本氏宅畑	0	0
広澤氏山林	11	15
広澤氏所有地	13	15
長谷川木工所	0	0
浅樋氏宅畑	0	0
三ツ谷バス停付近	7	7
大神子公園駐車場	0	0
パークタウン	128	240
役員・消防・婦人会	48	48
合計	455	745

解でした。感謝。また、地震発生時刻を知らせる方法として、小学校グラウンドを借りて煙火を上げることにしました。そんなこんなで計画作成。各自主防災会に広報し、参加人数を把握（未組織世帯は直接コミセンへ申し込み）して訓練を実施しました。訓練の流れは次のとおりです。

- 役員待機
- 九時三十分
- 地震発生（煙火）
- 三分後
- 避難準備、避難開始
- 避難場所到着
- 名簿記入（氏名・到着時刻）
- 津波到達予想時刻から避難経路、避難場所の問題

点等の意見交換会、地震避難への備えについて確認啓発

- 津波警報解除
- 保存水・非常食・非常持ち出し袋受け取り
- 解散

役員はコミセンへ、反省会

避難場所別の参加人数は別表のとおりでした。

案ずるより産むがやすし、手探りで実施した訓練、参加者が多ければまずは成功と思っていました。ご協力いただいた多くの方に感謝するとともに、今後は内容の充実に努めなければならぬと考え、ております。



編集後記

明けましておめでと〜うございます。

新年の松飾りで装われた徳島城鷲の門に込められた思いを見てみましょう。再興し寄進したのは吉井ツルエさんです。昭和の激動の時代に、夫は戦死し未亡人となりました。同じような戦争未亡人のために、蜂須賀の興源寺にそれらの人を集め、自分が開発した裁縫技術を教え自立のための講座を始めました。それが各地で勧誘され、やがて東京都や各府県に広がっていきました。吉井さんは百万人の戦争未亡人を救うことを願って蜂須賀氏に祈念し興源寺の石垣に一枚の貨幣を埋めました。やがて百万人の女性技術習得自立者を達成します。昭和六十二年石垣に埋めた貨幣を発掘し、すぐさま鷲の門の再興を市長に申し出ました。総櫓造り鷲の門の再興です。吉井さんは人情厚く豪気な気宇壮大な女性でした。本号に掲載されました市長様や協議会長様や各コミュニティ協議会の文章には深い意味があります。

（佐藤義忠 記）